氏　　名	島崎　裕正
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第６５３号
学位授与年月日	令和６年１２月４日
審査委員	主査　教授　　新野　大介
	副査　教授　　宮城　　聡
	副査　教授　　竹谷　　健

論文審査の結果の要旨

T細胞リンパ腫の一種である特定不能型の末梢性T細胞リンパ腫（PTCL-NOS）は、病理学的にPTCL-TBX21およびPTCL-GATA3などの亜型に分類される、異質性の高い疾患である。本研究では、免疫組織化学的アルゴリズムを用いて分類した日本人コホートのPTCL-NOSの臨床病理学的特徴を比較した。PTCL-NOS患者100人をPTCL-TBX21（n=55）、PTCL-GATA3（n=24）、またはPTCL-分類不能型（n=21）に分類した。PTCL-TBX21とPTCL-GATA3を比較すると、PTCL-TBX21ではCD4陽性率が有意に低く（p=0.047）、高内皮細静脈の数が少なく（p=0.032）、初期治療に対する反応が良好な傾向が認められた（p=0.088）。nCounterシステムを用いた遺伝子発現解析では、PTCL-TBX21では*PD-L1*、*LAG3*、*IDO1*などの腫瘍免疫関連遺伝子の発現がPTCL-GATA3よりも高いことが示された。PTCL-GATA3はPTCL-TBX21と比較して全生存期間（OS）が有意に悪かった（p=0.047）が、無増悪生存期間（PFS）では同様の傾向が認められた（p=0.064）。PTCL-GATA3は単変量解析では全生存期間の予後因子であったが（p=0.027）、多変量解析では有意差は認められなかった（p=0.074）。PFSの解析では、PTCL-GATA3は単変量解析（p=0.027）および多変量解析（p=0.032）により独立した予後因子であった。 PTCL-NOSをPTCL-TBX21とPTCL-GATA3に分類することは、日本人患者の予後予測と腫瘍免疫チェックポイント阻害剤の投与層別化に臨床現場で有用であることを明らかにした。